

多様な学校観が示唆する共通点の重さ

馬居政幸
静岡大学助教授

①「お父さん、来年からキャンプがなくなるって本当。デイズニードもいけないの。」

②「土曜日学校がないのはいいけど、そのため宿泊訓練や修学旅行がなくなつて、毎日勉強ばかりでは子供達がかわいそうね。」

③「先生も週休二日にしたいでしょうけど……でも土曜日休みでない人も多いのよ。それに塾がふえないかしら。非行も心配だし……。」
これらはいずれも最近、学校五日制に関して私に向けられた問いである。①は小学校4年の娘の質問。②は横で聞いていた妻の補足説明。③

はある地域でのお母さん方との家庭教育の懇談会で出された疑問。
娘と妻の不安は五日間の学校のあり方。授業優先で、六日を五日に圧縮するだけでは、多様な（楽しい）活動の余裕がなくなり、益々、子供は学校嫌いになると考えている。

学校には、強いて勉めるべき授業と、喜んで参加する活動、という二つの世界があり、二人の学校への期待は後者の方が大きい。また、現状でも子供は多忙、と思っている。

逆に③の母親の関心は二日の方。土曜日に子供が学校に行かなくなるかと「おこるかもしれない（おこるはず？）」ことを心配しての質問。
彼女にとって学校は様々な悪から子供を守る場。親が仕事をするために子供を預ける場でもある。教師が二日休むことへの反発もないわけではない。学校の勉強は正しく塾の勉強は悪い、とも考えている。

五日制への疑問が示唆する学校観は多様である。しかも三人の疑問にみるように、互いに矛盾する要求ともなる。だが共通点はある。

三人とも学校を勉強のみの場とは思っていない。休日増日を、教師の労働時間ではなく子供の教育問題としてとらえるのも共通。さらにいずれも、学校が変化すれば親や子が必ず従わなければならない、ということとを前提に生じる疑問である。

学校の外的世界は既に多様化して久しい。その中で親も子も生きていかねばならない。

だが学校は全国一律。そのズレへの苛立ちこそ、相対立する多様な学校観が暗示する、最も重い共通点ではないだろうか。

特集 「学校五日制」への準備と新年度計画

1ペーシ意見・「五日制」論議からみえてくる「学校教育への世論」……………	五
新井郁男 五日制論議にみられる学校教育観—教育六日制/馬居政幸 多様な学校観が示唆する共通点の重さ/大石勝男 公立離れに拍車がかからないか/小野寺辰夫 子どもたちのための生涯学習を/倉田侃司 学校は防波堤か/中野重人 学校がすべてかということ/深谷昌志 学校は何をするところなのか/堀内守 五日制論議からへ醒めた目が見えてくる/森隆夫 生涯教育の応用問題	一四
1ペーシアドバイス・「五日制」心配派保護者「説得のポイント」……………	一四
浦田浩 8つの説得のポイント/森田勇造 五日制は体験学習のすすめ/加藤一夫 21世紀を豊かにたくましく生きる子供を/田辺邦雄 今求める本当の学力とは	一六
学校週五日制—経緯と展望……………	一六
予想される「五日制」への疑問・不安にどう答えるか……………	二六
南里悦史……………	二六
「五日制」校内で何を論議し何を準備しておくか……………	二六
自ら考え、知恵を働かせたくましく生き抜く子の育成……………	二七
山鹿照夫……………	二七
心にゆとりある生活をおくろう……………	二七
水野明……………	二七
授業構成について継続的に研修を……………	二七
勝原昌孝……………	二七
主体的に学習や生活に取り組む子ども……………	二七
佐藤秀夫……………	二七
「五日制」の実施で「こがごとく」変わるか……………	二七
「五日制」の教育課程編成の変更点……………	二七
年間教育計画の変更点はどこか……………	二七
加藤哲夫……………	二七
時間割編成の工夫点はどこか……………	二七
有田和正……………	二七
指導方法の工夫点はどこか……………	二七
丸山義王……………	二七
「五日制」の学校運営・「こがごとく」変わるか……………	二七
教員の勤務態様の変更点……………	二七
石田昭彦……………	二七
学校開放の管理体制と留意点……………	二七
田中克……………	二七

「学校外の子どもの生活環境・行動への対応」……………	二七
休校日の過ごし方への対応……………	二七
中川正昭……………	二七
学校外の教育環境への対応……………	二七
手嶋義和……………	二七

「五日制」へのスムーズな移行体制づくり・ポイントはどこか……………	二七
目標達成のために機能させる体制づくり(小学校)……………	二七
藤田隆……………	二七
条件整備をしながら段階実施による教育改革を(中学校)……………	二七
平野有行……………	二七
子ども之余暇指導、保護者の理解協力をうる(中学校)……………	二七
井上修……………	二七
無理なく着実に進めることが肝要(養護学校)……………	二七
加納久弥……………	二七

資料 文部省「学校週五日制」に関する調査研究協力校「覽」(68校)……………	二七
文教ニュース 学校外活動の基盤整備で提言/多様化が進んだ……………	二七
教員採用試験……………	二七

連載・若い教師 教育課程編成にトライする・12……………	二七
資料の整理・活用で教育課程編成の力をつけていく……………	二七
藤本浩行……………	二七
連載・戦後部落差別事件史に学ぶ・12……………	二七
差別事件の根底にあるもの……………	二七
村越末男……………	二七
連載・生活科授業事始め・心配アラカルト・12……………	二七
生活科は三年以上にどのように発展するか……………	二七
中野重人……………	二七
インタビュールーム……………	二七
インタビュールーム……………	二七
今だから語る・あの時私は……………	二七
12……………	二七
インタビュールーム……………	二七
振り返って……………	二七
井上茂他……………	二七

既刊特集主要目次「一九九一年度」……………

☆扉のことは斎藤 勉……………

☆表紙写真・(株)モントレ/扉イラスト・飯島英明……………